

3月1日～7日は 春季全国火災予防運動

2023年度 全国統一防火標語

「火を消して 不安を消して つなぐ未来」

春先は空気が乾燥し、強風が吹きやすい季節です。屋外で火の取り扱いを誤ると、瞬く間に火勢が広がりますので、十分に注意しましょう。

【問い合わせ】ひたちなか・東海広域事務組合消防本部防災指導課(☎283-1119)



◀消防庁「住宅防火 いのちを守る 10のポイント」

住宅防火いのちを守る 10のポイント

【4つの習慣】

- ①寝たばこは絶対にしない、させない。
- ②ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。
- ③コンロを使うときは火のそばを離れない。
- ④コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。

【6つの対策】

- ①火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- ②火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的

に点検し、10年を目安に交換する。

- ③火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具や衣類およびカーテンは、防災品を使用する。
- ④火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使用方法を確認しておく。
- ⑤お年寄りや身体の不自由な方は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- ⑥防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

方言にみる古語

ふるさと歴史

〜歴史を再発見〜

東海村文化財保護審議会委員

宮田 裕紀枝

大神宮へのお宮参りの際に、祖母は私の名「裕紀枝」に「いぎい」と振り仮名を振ったと言います。何故そのように書いたのかを、最近になって知りました。それは「雪」のことを方言では「いぎ」と言い、茨城県特有の「え」を「い」と発音したことによるようです。

方言の話は、初対面の人同士でも盛り上がりやすい。同じように発音しても土地の人の言い方と微妙に異なる上、意味においてもなかなか表現できる適当な言葉がなく、ニュアンスが若干違ってしまうことも多くあります。しかし方言がどういった言葉に起因するものかということは、知られていないのではないのでしょうか。そこで、東海村の方言をいくつか見てみたいと思います。

東海村の方言は、古語が多く残っています。なかでも一般的に多く使用される「〜だっぺ」「〜だべえ」などは、「〜たるべし」が訛つたものと考えら

【蝸牛異称分布図】(柳田国男著『蝸牛考』の「蝸牛異称分布図」に加筆)



れます。「〜たるべし」の「たる」は「たり」の連体形で断定する助動詞です。また「へんめ(へびめ)」「いぬめ」などの動物名詞につく接尾語「め」は「奴」とする卑しめの言葉です。ほかにも「とつく(に)」は形容詞「とし」の連用形「とく」です。私が子どもの頃は、「まむし」のことを「くちはび」と言っていました。これも古語であり、「まむし」は『徒然草』に「くちばみ」として出てきます。

古語が多くみられるということは、平安時代に京都で使われていた言葉が、京都より遠い地域に残ったとする柳田国男(民俗学者)の「方言圏論」に当てはまってくると思います。柳田は、デンデンムの呼称から文化的中心地の言葉は周辺部に伝播し、受容されて広がっていったため、中心地から地理的に近い地域には発生の新しい言い方が分布し、遠い地域には発生の古い言い方が残るとしたのです。単に方言と思っていたものが、古語であるものが多いということは、東海村の方言は極めて貴重な言葉であると考えられます。誇りを持って、大いに使い、残していきたいものです。